

2004 . 9

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>
白石区民公式サイト「shiroishi.org」
<http://www.shiroishi.org/>

人工の壁に固定された大きさや形のさまざまな突起を、巧みに手足でとらえてよじ登っていく「スポーツクライミング」。特定の色の突起だけをたどって登る、この競技独特の課題コースを「パズルを解くようで、クリアしたときの達成感がたまらない」と語るのは、ネパール出身のサテイスさんだ。東札幌にある道内最大の室内クライミングジム「レインボークリフ」のインストラクターである。

十一年間従事した。この仕事を選んだきっかけは、十四歳で初めて登った山で、遠くまで続く段々畑や眼下に広がる雲海、間近に迫る急峻な峰々などの景観に感動したことだったという。

五年前に日本人女性とネパールで結婚。仕事柄外国人と接することが多く、異国文化に興味を持っていたサテイスさんは、妻の故国日本の文化に強く探究心を抱き、二年前に日本に移り住む。旅行代理店などに勤めたが、仕事で登った山の楽しさが忘れられずにいた。そんなとき札幌に室内クライミングジムができることを知り「これだ」とひらめいたという。そして山岳が

なぜ、壁に登るのか。難しい理由などなく『楽しいから』その一言がすべてなんです。

人

今月の



ネパール出身の
スポーツクライミングインストラクター
サテイス・マン・パティさん(三二)

(中央在住)

イドの経験が高く買われインストラクターに採用された。実は彼がスポーツクライミングを始めたのは採用になってからのこと。しかし基本的に「壁を登る技術」はロッククライミングと共通で、慣れるのに時間はかからなかった。この競技の特徴は、落石や墜落の危険が伴う自然の岩壁に登るロッククライミングと異なり、誰もが安全にレベルに合わせて気軽に挑戦できることだという。自然壁に恵まれたネパールでの普及は遅い。「ネパールに大きな室内ジムを作り、地元の人に安全にクライミングを楽しんでもらうことが夢」。そう語る彼は、今日も夢に向かって壁を登る。

■編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003-8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1
☎861-2400 内線224
FAX860-5236